



「赤い鳥」童謡 第一集

鈴木三重吉氏編
北原白秋氏作謠
西條八十氏作謠

成田爲三氏作曲
清水良雄氏挿畫
鈴木三重吉氏裝

詩集と畫集と同時に曲譜集を兼ねたる
日本最初の創始的様式。

△ われ／＼は哀れにも、お互に人間として殆ど謠ふべき謠を持つてゐない。われ／＼の子供たちでさへも、單に器械的なる或種の低級な歌以外に、果して何ものを誇り得るであらう。

△ これに對して、たゞひとり「赤い鳥」の謠は、いづれもわれ／＼の第一流の作家が、最近の詩壇に一境地を區劃した傑作のみで、その或ものゝ如きは直ちに、すぐれたる古歌として永久の生

命に輝くべき絶唱とさへいはれてゐる。その作曲も悉く、一人の年若き天才の代表的作篇として推服された名作である。

△ この第一集は、その中の選ばれたる五篇の謠と曲とに、麗かなる水彩畫の逸品を配偶したるもの。

△ 裝釘は編者三重吉氏自身の考案に出づ。表紙、桔梗色の染奉書に金字を置き、開いて兩見返しの明い黄金色に對

△ 比せしむ。本文の紙は敢て九十八斤の豊麗なアート紙が使つてある。

△ 本そのものとしても、音楽界文藝美術界を通じて、これ程感じのよい出版書は眞に空前であると評されてゐる。

△ 定價六十錢。郵送料四錢。すべての書店、樂器店に陳列。

發行所 東京日本橋區箱屋町七番地
「赤い鳥」社

振替東京貳九四壹六番